

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195100037		
法人名	株式会社 日本キャリアサービス		
事業所名	グループホーム だんらん紋別落石館		
所在地	北海道紋別市落石町3丁目29番11号		
自己評価作成日	令和5年1月26日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、入居者様中心のケアを大切に、その日その時入居者様個人の訴えや状態に合わせ可能な限り柔軟に対応する様努めています。また、ご本人や家族様とケアカンファレンスなどを通じて入居者様の生活が平穏なものになるよう取り組んでいます。しかし、令和3年から始まった新型コロナウイルス感染防止対策の影響で社会的(地元学生の受入施設実習等)・地域的(町内会行事等)繋がりが希薄となっているのが現状ですが、感染状況を見極め一時中止していた焼肉レクリエーションやドライブ、花壇整備などを復活させ少しずつ従来の生活スタイルに戻る努力をしています。また、令和3年11月からICTを活用(ipad)し入居者様の状態・情報を一元化し、スタッフ全員が情報を共有し入居者様に即したケアを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195100037-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームだんらん紋別落石館は、住宅街に立地し2階建の2ユニットで平成20年8月に開設し、法人は紋別地区に2件のグループホームを有しています。地域交流はコロナ禍でほとんど出来ていませんが、看護学院生の実習の受入れを行い利用者として交流が実現しています。家族の方が停電の際に発電機を持ってきて普及まで維持してくれたり、家族からの差し入れ、除雪機の寄付等の支援等があり地域住民や利用者家族の交流・協力を得ています。開設時に職員で作上げた「いつも笑顔が はじける 信頼のわが家 だんらん」理念の基、日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの残存機能に合わせた役割や個々の課題を利用者への言葉かけを工夫し生活する上での家事全般や畑仕事、花の世話をしない、生きがいや意欲に繋がるように努めています。また、ホーム長や管理者は利用者の気持ちを優先する実践がなされ、ゆったりと利用者に合わせて柔軟な支援と本人本位の介護になるように日々の利用者の変化に合わせた支援に心掛けるように職員に指導しています。職員は個々のモチベーションを上げるため、毎年、年度始めに自己の目標を設定し、個々の利用者の状況に沿った介護の提供を試みています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念は、グループホームの意義を全員で確認し、ホームの在り方を理念としました。職員全員が参加し、作り上げた理念として、利用者との関係性を大切にしたい理念となっています。	事業所理念のもと、利用者の思いを大切に、その人らしく、笑顔で楽しく、安心して過ごされるよう支援に努めています。フロア会議で職員に理念について話し合う場を設けています。パンフレットにも記載され関係者に周知しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為、地域行事への参加や近隣擁護学校への交流を中止している為、地域との交流が途絶えている。	コロナ感染防止対策のため、町内会との交流は出来ていませんが、運営推進会議議事録や町内会総会資料等で双方で情報交換を行っています。高等看護学院生の実習生を受け入れ利用者と楽しく交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	従前地域の研修会に参加したり、人材育成の貢献としてボランティア、実習生、施設体験等の受入にも協力していたがコロナウイルス感染防止の為、途絶えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来年間6回会議を開催し委員の皆様へ直接状況等を報告し助言を頂くところですが、コロナウイルス感染防止の観点から中止が続き郵送等で日常報告のみ実施している。	コロナ感染防止対策のため、奇数月で書面報告(利用者状況、事故・ヒヤリハット、行事、研修等)となっています。議事録は運営推進員(民生委員、行政担当、包括担当、近隣住民、家族)に郵送で送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月当ホームの入居について報告を行っているほか、不明な点などは気軽に電話や出向くなどして意見の調整を行っている。また、運営推進会議のメンバーとして助言を頂いている。	行政の担当者には運営推進会議やコロナ感染予防対策、研修などの情報交換・相談・申請手続き時のほか、「だんらん新聞」提供時にコミュニケーションが図られ、良好な関係を築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を整備し、身体拘束廃止に向けた意識を持ち身体拘束をしないケアの徹底に取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会は身体拘束廃止に関する指針に基づき、年4回の委員会を実施しています。また、外部研修の受講職員による伝達研修を行い理解度を掌握するため参加職員に研修報告を提出させています。ホーム長や管理者は、その都度不適切な行為があれば職員間で注意できるように指導しており身体や言葉の行動抑制がない介護に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対する虐待が見逃されることがない様に注意を払い、情報を共有する事で防止に努めている。コロナウイルス感染防止の観点から対面研修に参加出来ていないがZOOMでの研修を受け、参加出来ていない者に内部研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルス感染防止の観点から権利擁護に関する研修会等への参加を見合わせている為、職員の理解を深める機会が減少している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、契約書を用いて施設長が中心となり、ご本人、ご家族に利用料や起こりうるリスク、重度化や看取りに対する方針、医療連携の体制等について詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染防止の観点から直接お話しを聞く機会が激減しケアカンファレンスも実施出来ない状況ですが、差し入れ等数少ない来設時や電話でニーズの把握に努めている。	だんらん新聞は4ヶ月毎に1回、利用者の活動写真やコメント等を記載したものを家族に送付しています。面会はコロナ感染予防対策でほとんど面会禁止ですが、面会制限(事務所でアクリル板を用いて10分位)時もあり利用者と家族の笑顔と安心に繋げています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からのコミュニケーションを図り、フロア会議等で現状報告や意見を聞き情報の共有化、報・連・相に努めている。	月1回フロア会議があり、カンファレンスを中心に利用者状況や改善点が話される他、発言し易い職場環境がつけられ、日常的に意見・提案が行われています。人事考課は法人で職員個々に年1回聞き取りを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足から、ゆとりのある労働環境を提供できない状態が続いている。給与水準については、取得可能なサービス項目を増やし引上げを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、外部研修への参加も制限され、ZOOM研修を受けたスタッフが講師となり内部研修を実施しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がケアマネ連協の研修に参加しスキルアップに努めているが、他のスタッフについては機会がないのが現状です。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前来て頂きご本人との会話し、施設の見学、説明などをし理解して頂くことがベストな方法と思われるが、現状はコロナの関係で難しく家族に基本情報(私の基本情報シート)を出来るだけ詳しく記載してもらい理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、これまでの家族の取り組み苦労等を聞き、これまでのサービス状況等を含め話し合いを持つようにしている。話を聞くことにより、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のこれまでの取り組みを確認するとともに、地域の福祉サービスの紹介や説明を行い、その方に適したサービスの助言をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや、悲しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えられる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いをきめ細かく伝えることで、ご家族と職員の思いを重ね、ご本人を支えていける様に留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスで馴染みの人や場との関係は希薄になった傾向は否めない。従来環境状態に早く戻り馴染みの人と場所の関係を取り戻したい。	理容師に2～3ヶ月に1回訪問で行っています。利用前の生活習慣で新聞や雑誌などを読んだり、日課の体操(テレビ体操、ごぼう体操)をしたり、中には携帯電話で毎日家族に連絡している方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じ、ご本人の役割見たいものが構築されており「掃除・洗濯物の片づけ、また利用者が別の利用者の面倒を見るなど自主的に行われおり、職員が調整役となり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた際も、機会があるときに様子を伺うよう努めているが、現状はコロナウイルス感染防止の為滞っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活にて、ご本人の意向、思いを確認しケアプランに反映しています。入居者の希望を確認する良い機会となっています。	職員は毎日笑顔で声掛けを行い利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、寄り添うことで、思いや意向を把握しています。困難な場合は、日々の関わりの中での表情や仕草などから汲み取るほか、家族からの情報提供を得て、利用者本位に検討をされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用することで、一人ひとりの生活歴等の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、小さな行動からご本人の心身の状態をくみ取れるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃から関わり意見を聞き取り、介護計画に反映させている。毎月担当者モニタリングによりサービス実施状況を把握して、次回のケアプラン作成に活かしている。	見直しは基本6ヶ月1回行っており、アセスメントやモニタリング、日々のカンファレンスを中心に問題点や改善点、残存能力の維持等を話し合っています。また、日々の介護計画の状況はICTを活用し利用者状況の一元化を図っています。担当制であり本人家族の意向を聞き取りながら個々の状況に沿った介護計画作成されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	令和3年10月より手書の記録方式からiPadに変更する。記載項目の一元化や写真添付による記録が可能となり職員間の情報共有が向上した。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院の送迎等必要な支援に柔軟に対応し、個々に満足が得られるように努力している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的施設の利用や催し物の参加などの支援をしているが、現状はコロナウイルス感染防止の観点から滞っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族が納得したかかりつけ医となり、定期受診や情報提供にて主治医との連携もとれている。	希望する医療機関の受診は基本事業所で支援し、医師の指導で家族が付き添うこともあります。訪問看護師が来所し利用者の健康管理に繋がっています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約に基づき、日頃の健康管理や、医療面での相談、助言、対応を行って頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナウイルス感染防止の観点から、ご本人に面会が出来ないが病院担当者と出来るだけ情報交換をする様努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、将来起こりうる事態に予測をつけ、事業所が最大限出来るケアについて説明を行っているが、現状では看取りが出来る環境ではない。	重度化や終末期の指針があり、地域の現状と事業所で出来る事、出来ない事を本人・家族に説明をし理解を得ています。看取りはしていませんが、利用者の状況変化等は医療機関の受診の段階で早めに家族に報告し、主治医を交えて相談しながら対応に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、事業計画書に記載しており、フロア会議等で日常の変化など確認し合い対応に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、昼間・夜間の火災を想定し実施しているが、その他の災害に対しては地理的に想像し難く避難訓練が滞っている。	火災避難訓練は9月日中想定自主訓練、10月に消防立会いの基夜間想定で連絡、消火訓練、利用者の避難誘導等を含めた訓練を実施しています。	あらゆる災害時の安全対策を災害毎に対応したシミュレーションを行い更なる利用者の命の安全・安心に繋がることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する問題や個人情報に関する問題については慎重に取扱い、管理している。公開して良いとされている個人情報に関しては、ご本人、家族、事業所間で同意書が交わされている。	ホーム長や管理者は利用者には大きな声で話をしないように利用者本人に聞こえる程度で耳元でささやくように職員に指導しています。職員には日頃より言い合える・注意し合える関係構築を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との馴染みの関係を通じて、お互いにものを言い易い関係を構築している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で区切るような過ごし方は行っていない。入居者のペースに合わせて柔軟に対応する様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で馴染みの美容室に出かけられないが、ご近所の理容室に協力して頂き出張でカット等して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間内に拘らず入居者様それぞれがゆっくりと食事をたのしみで頂くよう心掛けています。食が絡むレクリエーションを増やし、一緒に作り一緒に食べ楽しい時間の提供に努めている。	献立は職員が作成し、利用者には日々できることを手伝って頂きながら食事を楽しまし工夫を心掛け、誕生会は本人の希望を聞き提供しています。事業所前で焼肉を行い肉や魚、マシヨマロ等を焼き好評で笑顔で美味しかったの歓声が上がったり、デリバリーでハンバーガー等を食したりしています。おやつは手作りの南瓜団子やおはぎ等を提供し、利用者と一緒に作ることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については記録に残し、食事摂取量については、本人の状態に合わせて記録している。また、各入居者にあった食事の提供やそれぞれのリズムで食事が摂れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、なるべく自分で行ってもらっている。自分で出来ない方は、職員が口中の清潔や入れ歯の洗浄等をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が継続出来るよう利用者に向けた支援をしています。また、失禁等で不快にならないよう利用者一人一人の排泄パターンを把握しその方に向けた声掛けをしている。	トイレでの排泄を基本的に排泄パターンや利用者の表情や動作などでトイレ誘導を行っています。夜間は利用者の安全性のためセンサーやポータルトイレを使用している方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	iPad上で一目に利用者様の排泄状況が確認出来る状態にしているとともに、医療職と協力している。利用者様毎の服薬や食事からのアプローチにより便秘予防または、改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯をホーム側で仮設定しているが、安心してゆっくり入浴して頂けるようご本人にその都度確認し入浴して頂いている。	週2回を基本に、入浴剤を使用し利用者とは会話をしながらゆったりと入浴が楽しめるように工夫しています。中には、見守りながら一人で入浴される方もおります。利用者の体調の状況に合わせて日程を変えながら支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のその日の状態や変化に応じて休息出来る様に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に処方箋を確認する他、院外薬局の職員が薬を配達してくれる時に説明を受けている。また、iPadで薬の詳細を確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の生活を通じてご本人が楽しみながら行える活動をしている。(モップがけや洗濯物かたづけ等)また、不定期ですがドライブやレクリエーションなど外出する機会を多く持てる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に協力して頂いて本人の希望の場所への外出、職員と一緒に外出など外出機会を増やすよう努めていたが、コロナ禍では自粛している。	天気の良い日には公園へドライブや港に小人数で出掛けたり気分転換を図っています。利用者同士でプランタンで色々な花植えや水やり等の花の世話をしています。中には、畑に種を植え、草取りや収穫を全て行う方もおり、利用者の楽しみと生きがいに繋がっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、必要な時使えるようにしている。基本主任が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により対応出来る様にしている。地方のご家族と手紙のやり取りのある利用者様の返信のお手伝いもしましたが、上手く行かなかったの実態です。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には利用者が作成した季節感のある作品や定期的に発行している壁新聞・漢字の間違った探し問題クイズ貼り、それらを見て利用者間で楽しい会話が弾み、食事中は窓から見える花で楽しく食事が出来た。	壁には季節を感じさせる職員と一緒に作った作品の飾ざられ、行事の飾りなどで家庭的な雰囲気となっています。居間の窓にはプランターが置かれ利用者同士、花を植え愛でながら会話を楽しんでいます。新聞のたたみやパズル、ゲーム、カラオケ等思い思いにのんびりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる様にリビングにソファを複数設置している。危険個所には保護カバーをつけ安全性を努めています。その他中庭・玄関先にベンチを置くなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトについては、安全性を重視し、ご本人とご家族そして職員で話し合っ決めていく。持ち込む物についても、なるべくご本人と馴染みの深い物をお願いしている。	各部屋には収納し易いクローゼットが設置されています。使い慣れた家具(ベッド、筆筒、小テーブル、仏壇)や家族や孫の写真、歌手のポスター等が貼られています。いつも折り鶴をされる方がおり、個々のその人らしく過ごせるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に解りやすい様に、案内板などを付け、なるべく自分で出来る部分を増やせるように工夫している。		